

令和 7 年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

循環器内科・不整脈科

医師の紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

循環器内科・不整脈科



No.	氏名	役職等
1	尾畑 純栄	循環器内科・不整脈科部長
2	長谷部 秀幸	科長
3	中村 淳	科長
4	渡邊 和徳	医長
5	安藤 涼太	医長
6	伊東 志優	医員
7	南條 宏太	医員
8	中島 裕菜	医員
9	鈴木 惇平	医員

診療実績等

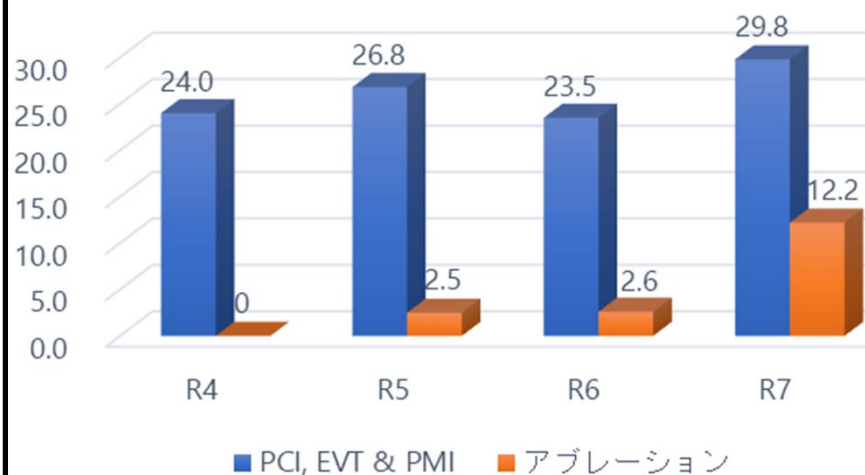


藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

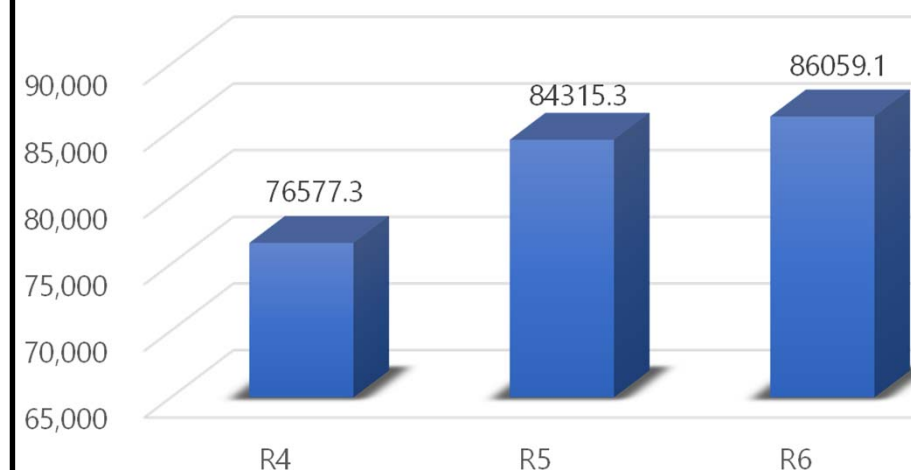
循環器内科・不整脈科

主な診療実績	R4	R5	R6
外来患者数	65.7人／日	61.6人／日	54.5人／日
入院患者数	34.0人／日	31.3人／日	29.5人／日
新入院患者数	67.7件／年	72.8件／年	75.8件／年

1か月平均症例数



1か月平均入院稼動額（千円）



令和6年度の診療実績

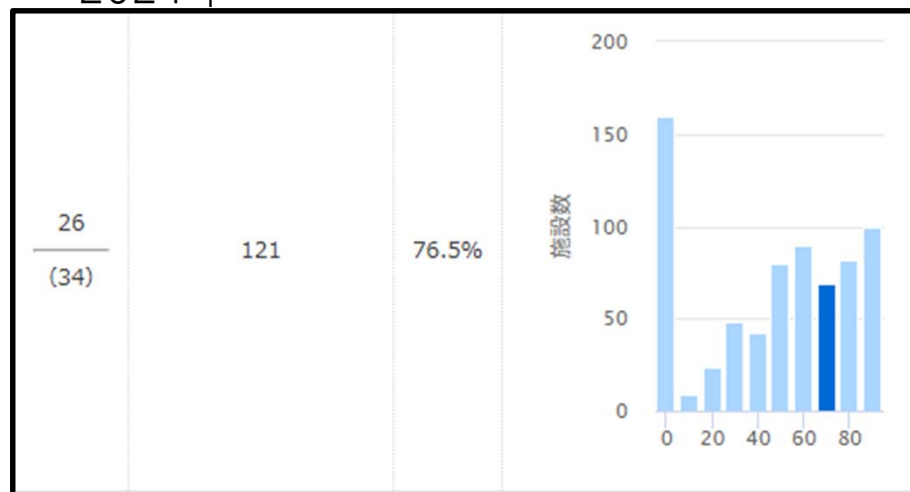


藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

循環器内科・不整脈科

1. 緊急カテーテル治療; Door to balloon time 90分以内達成率の上昇

2024年



	STEMI	DBT ≤ 90分	達成率 (%)
2021年	70	55	78.6
2022年	68	54	79.4
2023年	81	52	64.2
2024年	70	55	78.6

日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) のJ-PCIレジストリー研究からデータを抜粋

対象はST上昇型急性心筋梗塞 (STEMI) のみ

Door to balloon time (DBT) 90分以内を達成した割合は、概ね70%台後半で推移し、全国平均以上を維持できている

中期目標・令和9年度に目指す姿

循環器内科・不整脈科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和9年度



地域完結型循環器診療を目指す

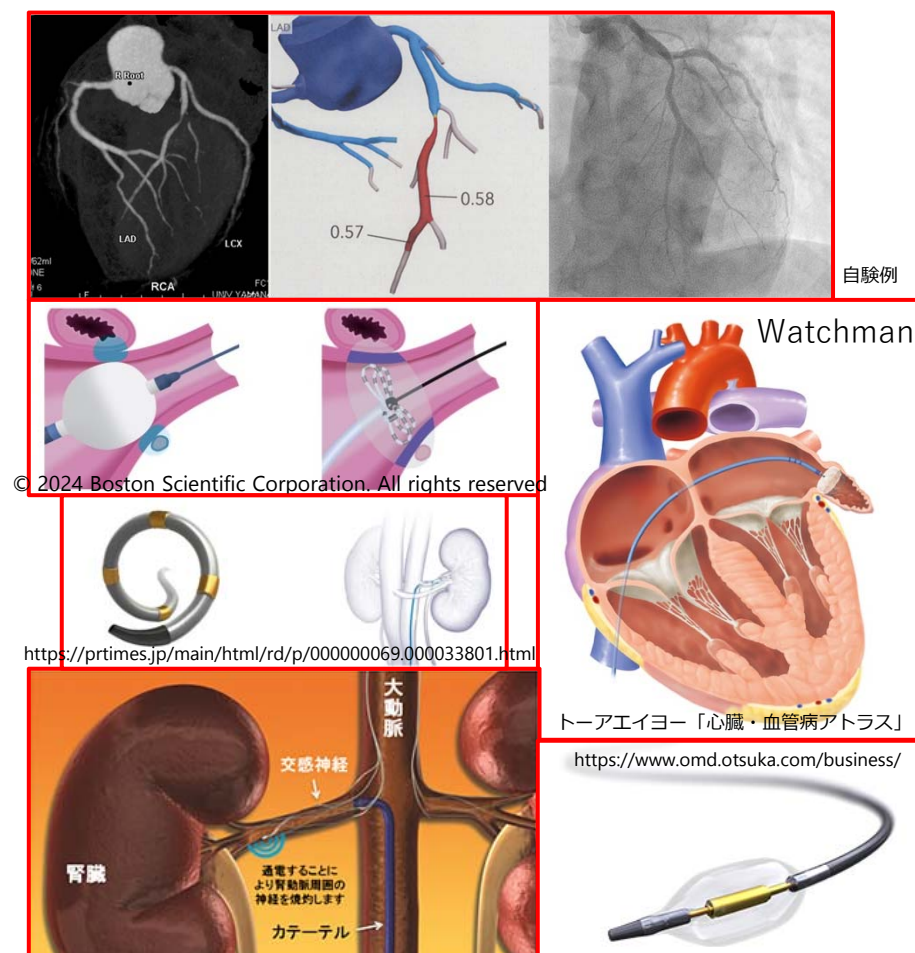
- ・ 24時間365日、可能な限り循環器救急症例を受け入れます
- ・ 心不全診療体制（地域・多職種連携）をさらに充実させます
- ・ 循環器疾患に網羅的に対応できるようにします
- ・ 地域住民および医療機関に信頼される診療科を目指します

短期目標・令和7～8年度の目標

循環器内科・不整脈科

No.	項目	目標
1	緊急カテーテル治療	Door to balloon time 90分以内達成率の上昇
2	心不全入院	DPC期間Ⅱ以内に退院できる患者さんの割合の増加
3	不整脈診療の強化	不整脈専門医研修施設の認定 パルスフィールドアブレーション
4	心不全地域連携	藤枝市内全域におけるネットワークの強化
5	新規医療技術の導入	カテーテルによる左心耳閉鎖や高血圧治療

今後予定している新たな新規医療技術



- FFR-CT
冠動脈CT検査で、心筋虚血の有無を非侵襲的に評価できる。
- パルスフィールドアブレーション
心筋組織選択性の高い高電圧パルスを用いることで、周辺組織への損傷が少ない。治療時間の短縮。
- カテーテル左心耳閉鎖術
抗凝固が必要にもかかわらず出血リスクの高い症例が対象
- 腎デナベーション
降圧剤多剤併用でもコントロール不良の難治性高血圧症例が対象

決 意

地域完結型循環器診療を目指して、
あらゆる循環器疾患に網羅的に対応し、
(軽症から重症、急性期から回復期・慢性期まで)
かつ、疾患の発症の予防にも努め
地域医療に貢献するとともに、
病院の健全経営にも貢献できるよう
努力してまいります

各地で様々な活動が行われています

Jリーグ×健康ハートの日 2025 ハートはともだち～大切にしよう、自分のハート

Jリーグ × 健康ハートの日 2025

Jリーグ × 健康ハートの日

～ハートはともだち、大切にしよう、自分のハート
Jリーグクラブと連携して「健康ハートの日」を全国のスタジアムで

2025-08-03

ロアッソ熊本 - 水戸ホーリーホック (えがお健康スタジアム) 開催済み



駅前での啓発活動

Jリーグ所属チームとの合同企画も毎年やっています



ライトアップ

来年夏、一緒に啓発活動、イベントやりませんか？

健康ハートの日HP(<https://www.kenko810.com/>)

山梨大学医学部附属病院HP(<https://noushincenter.yamanashi.ac.jp/150>)

より抜粋